4　　母子猿の相愛 　　　　　 　　　文法　動詞①　四段活用

　　読解　行動の理由をつかむ

新傾向　複数資料の共通点をつかむ

国の住人太郎入道とⓐいふものありけり。男なりける時、つねに猿を射けり。ある日、山を過ぐるに大猿ありければ、木に追ひのぼせて射たりけるほどに、ⓑあやまたずかせぎに射てけり。すでに木より落ちむとしけるが、①何とやらむ物を木のに置くやうにするを見れば、子猿なりけり。②おのがきずをⓒ負ひて土に落ちむとすれば、子猿を負ひたるをたすけむとて、木の股に据ゑむとしけるなり。子猿はまた、母に付きて離れじとしけり。③かくたびたびすれども、なほ子猿付きければ、④もろともに地に落ちにけり。それより長く、⑤猿を射ることをばとどめてけり。

語注

豊前国＝現在の福岡県東部と大分県北部。

基本古語

かく（副）＝このように。

なほ（副）＝やはり。依然として。

【原文】

豊前国の住人太郎入道といふものありけり。男なりける時、つねに猿を射けり。ある日、山を過ぐるに大猿ありければ、木に追ひのぼせて射たりけるほどに、あやまたずかせぎに射てけり。すでに木より落ちむとしけるが、何とやらむ物を木の股に置くやうにするを見れば、子猿なりけり。おのがきずを負ひて土に落ちむとすれば、子猿を負ひたるをたすけむとて、木の股に据ゑむとしけるなり。子猿はまた、母に付きて離れじとしけり。かくたびたびすれども、なほ子猿付きければ、もろともに地に落ちにけり。それより長く、猿を射ることをばとどめてけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

［　　　　　　　　］が、ある日［　　　　］を連れた［　　　　］を射た。母は［　　　　］を助けようとしたが、結局は二匹とも木から落ちて死んでしまった。それ以来、［　　　　　　　　］は［　　　］を［　　　　］ことをやめてしまった。

問二　［チェック問題］動詞①　四段活用

⑴　二重線部ⓐ～ⓒの動詞について、次の活用表を完成させよ。〈1点×3〉

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ⓒ | ⓑ | ⓐ |  |
|  |  |  | 基本形 |
|  |  |  | 語幹 |
|  |  |  | 未然形 |
|  |  |  | 連用形 |
|  |  |  | 終止形 |
|  |  |  | 連体形 |
|  |  |  | 已然形 |
|  |  |  | 命令形 |
|  |  |  | 活用行 |

⑵　次の（　　）内の動詞を、指定された形に活用させよ。〈2点×5〉

1　いにしへのの有様を（問ふ・未然形）せたまひてこそ、… （大鏡）

2　といふ鳥、岩の上に（あつまる・連用形）居り。 （土佐日記）

3　この世の人は、男は女に（あふ・連体形）ことをす。 （竹取物語）

4　恐ろしと（思ふ・已然形）ども、すべきやうもなくて居たれば、… （宇治拾遺物語）

5　おのれはとうとう、女なれば、いづちへも（行く・命令形）。 （平家物語）

1〔　　　　　　〕　2〔　　　　　　〕　3〔　　　　　　〕

4〔　　　　　　〕　5〔　　　　　　〕

問三　傍線部①・②は具体的には何であるか。それぞれ本文中から二字で抜き出して答えよ。〈4点×2〉

1. 〔　　　　〕　②〔　　　　〕

問四　傍線部③とは具体的にはどのようなことをいうのか。二十字以内で答えよ。〈10点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部④のようになった理由として最も適当なものを選べ。〈6点〉

ア　子猿が恋しさから母猿にしがみついていたから。

イ　子猿も母猿と同じく矢傷を負っていたから。

ウ　母猿が子猿を誤って木から落としてしまったから。

エ　母猿を追うように、子猿も自ら落ちたから。

〔　　　〕

問六　傍線部⑤について、やめた理由の説明として最も適当なものを選べ。〈7点〉

ア　猿一匹満足に射止められない未熟な弓の腕前に嫌気がさしたから。

イ　一本の矢で二匹の猿を射止めるに至った弓の腕前に満足したから。

ウ　母子猿のを見て、猿を射ようとする気が失せてしまったから。

エ　仏門に下っている者として、無用な殺生を恥ずかしく感じたから。

〔　　　〕

問七　本文の出来事のあとに「太郎入道」は出家している。次に挙げる【文章】において、「男」もこのあとに出家している。また、【感想文】は、本文と【文章】を読んだ生徒の感想文の一部である。これらを読んで、【感想文】のうち、本文と【文章】の解釈として適当でない箇所を傍線部ア～エから一つ選べ。〈6点〉

【文章】

　男は池で雄雌二羽のを見つけ、雄を射て持ち帰った。すると夜中、鴨の死体を掛けておいたところに雌の鴨がいる。

早う、昼、池に並びて食ひつる雌の、雄の射殺されぬるを見て、夫を恋ひて、取りて来たる尻に付きて、ここに来にけるなりけりと思ふに、男ちに道心りて、あはれに悲しきこと限りなし。人、火をしてれるを恐れずして、命を惜しまずして夫と並びてゐたり。（『今昔物語集』）

【感想文】

　本文の太郎入道や、【文章】の男は、猿の母子や鴨の雌雄といった動物の姿を目にしました。太郎入道の狩りの対象となった猿は、母子とも地上に落ちてしまいます。【文章】の鴨の雌は、男に射抜き殺された鴨の雄のあとを追っていきます。アこれらの動物は、自らの危険を顧みずに相手のことを思って行動しています。そして、イ動物たちは、愛する者を必死で助けようとしています。

　ウ太郎入道や男は、愛する者と一緒にいようとする動物の愛情深さを理解したのでしょう。そして、エ自分が罪深い殺生をしてきたことを後悔して、出家を決意したのだと思います。

〔　　　〕

【解答】

問一　太郎入道／子猿／大猿／子猿／太郎入道／猿／射る

問二　(1)〈1点×3〉

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ⓒ | ⓑ | ⓐ |  |
| 負ふ | あやまつ | いふ | 基本形 |
| 負 | あやま | い | 語幹 |
| は | た | は | 未然形 |
| ひ | ち | ひ | 連用形 |
| ふ | つ | ふ | 終止形 |
| ふ | つ | ふ | 連体形 |
| へ | て | へ | 已然形 |
| へ | て | へ | 命令形 |
| ハ行 | タ行 | ハ行 | 活用行 |

(2)　1＝問は　2＝あつまり　3＝あふ　4＝思へ　5＝行け〈2点×5〉

問三　①＝子猿　②＝大猿〈4点×2〉

問四　大猿が子猿を木の股に置こうとすること。（19字）〈10点〉

問五　ア〈6点〉

問六　ウ〈7点〉

問七　イ〈6点〉

【現代語訳】

豊前国（現在の福岡県東部）の住人で太郎入道という者がいた。俗人であった時、いつも猿を射（てい）た。ある日、山を越える時に大猿がいたので、木に追いやってのぼらせて射たところ、狙いを外さず木の股で射てしまった。（大猿が）今にも木から落ちようとしていたが、（大猿が）何か（わからない）物を木の股（のところ）に置くようにするのを（太郎入道が）見ると、子猿であった。自分が（矢）傷を負って地面に落ちようとするので、子猿を背負っているのを助けようと思って、木の股（のところ）に置こうとしたのである。子猿はまた、母にしがみついて離れまいとした。このように何度も（やりとりを）するけれども、やはり子猿がしがみついたので、一緒に地面に落ちてしまった。それから長い間、（太郎入道は）猿を射ることをやめてしまったとかいうことだ。

【文章】現代語訳

驚いたことには、昼、池に並んで餌をあさっていた雌（の鴨）が、雄が（男に）射殺されてしまったのを見て、夫（＝雄の鴨）を恋い慕って、（雄の鴨を）取ってきた自分（＝男）のあとについて、ここに来たのだなあと思うと、男は突然に仏教を修める心が生じて、しみじみと悲しいことは限りがない。（雌の鴨は）人が、火を灯してやって来たのを恐れることなく、命も惜しまずに夫と並んでいた。

【補充問題】

問１　「あやまたずかせぎに射てけり」（２～３行目）とあるが、何を射たのか。本文中から二字で抜き出して答えよ。

問２　本文の内容に合致するものを一つ選べ。

ア　太郎入道は、出家してからも長らく猿を射ることを続けていた。

イ　子猿は、太郎入道から上手く逃れることが出来ず、死んでしまった。

ウ　太郎入道は、大猿が木に登っているのを見つけて、射かけた。

エ　母猿は無傷の子猿だけでも助けようとしたが、叶わなかった。

【補充問題解答】

問１　大猿

問２　エ